



介護報酬改定を読み解くこれからの介護の姿

一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 代表理事 丸山法子

◆医療・介護報酬の同時改定を迎えて

団塊の世代が75歳を迎える2025年を見据えて、今後ますます高齢化率の急速な高まりから、社会保障費の増加が財政を圧迫するのを懸念したことが大きく改定の背景にあります。「2年に1度」の改定である診療報酬は、医療費や診療内容に影響する医療制度の基礎となる仕組みであり、保険給付の範囲や内容を定めるだけでなく医療政策の基本方針との整合をとりながら実施されていますので、「3年に1度」の改定を行う介護報酬とあわせて今回の6年に一度のタイミングに、通常の報酬改定以上に医療と介護の連携が強化される内容になっています。

介護の社会化を謳った介護保険制度でしたが、今までの改定で「介護予防の重視」や「地域包括ケアの推進」、「地域支援事業の充実」といった、いわば社会の要請に応じた内容に変わってきたのを見ると、今回の改定は、本格的に在宅生活へ向かうことと自立支援と重度化防止を強く意識しています。同時に、要介護認定者以外にも元気高齢者自身が主体となって医療と介護の担い手として携わることとなります。これらは、総合事業等で、すでに全国各地域独自のさまざまな活動が展開されていますね。ここであらためて報酬改定の考え方を確認して、今後の介護サービス展開を考えてみようと思います。

平成30年度介護報酬改定の概要

1. 地域包括
ケアシステムの推進

2. 自立支援・重度化防
止に資する高い
介護サービスの実現

3. 多様な人材の確保と
生産性の向上

4. 介護サービスの
適性化・重点化を通じた
制度の安定性・
持続可能性の確保

◆平成30年度介護報酬改定の 基本的な4つの考え方

1. 地域包括ケアシステムを推し進める

全国どの地域に暮らしていても、必要な医療と介護

サービスが受けられるようにしよう、そのために必要な体制を整えていこうという考え方が地域包括ケアシステム。ターミナルケアや看取りの重視は、特養や在宅での看取りをめざします。また、ケアマネジャーの医療機関との情報連携義務化などは医療と介護をスムーズにつなぐ役割を求められています。医療的ケアが必要な重介護者を受け入れることや、看取りやターミナル機能を備える医療介護院の創設、認知症の対応は従来以上に強化されています。

2. 自立支援・重度化防止の取り組みを強化

自立支援・重度化防止には必須のリハビリテーションの強化を中心に改定されているのですが、リハビリテーションに関係する複数のサービスで単位があがりました。リハビリテーションマネジメント加算やアウトカム評価など、どんなサービスを提供したか、よりも、それによってどうなったかについて評価されるようになります。そのため、有資格者を配置するだけでなく能力のある有資格者が必要で、外部のリハ人材と連携して、なおいっそうの自立支援にむけた複数の取り組みが求められています。

そして訪問介護では、生活援助中心型の基本報酬の引き下げに伴い身体介護の報酬が微増、利用回数が多すぎる訪問介護（生活援助中心型）を適正化する方針が出ています。

3. 多様な人材の確保と生産性の向上

今後の高齢者数を担える介護人材の確保が年々厳しい状況となるため、外国人や定年退職後のシニア層、子育てが落ち着いた女性や中高年などをターゲットにした多様な人材の確保をめざしていくことや、介護ロボットやICTを活用して現場の介護業務負担の軽減や質の向上をめざすという方向です。

介護福祉士はもてる専門技術を活かして身体介護を中心に担ってもらい、家事や調理といった生活援助は「新たな人材」に担い手となってほしいという考え。そのため生活援助ができる訪問介護ヘルパーの研修時間を短縮するなどの措置が取られる予定で、新しいカリキュラムは59時間となり、現行の130時間から大きくハ-

ドルを下げたこととなります。これで人材の確保がスムーズにいけばという考えです。しかし、それでも人材は増えないと考える現場からの声も多く、今後の取り組みに注目していく必要があります。

4. 介護サービスの適正化

介護保険財政の継続をめざすために、収益の大きいサービスの基本報酬がカットされています。大規模型の通所介護の減算や、訪問系サービスの集合住宅居住者への訪問サービス「集合住宅減算」が拡大されます。めざすのは、介護保険制度の必要のないサービス利用を是正して必要なケアに集中させることでその効果をあげることと、費用負担をうまく担いあい、将来増加する利用者層を支えるに堪える健全財政にすることです。

◆報酬改定のまとめ

今回は全体で0.54%のプラス改定といわれています。しかし、ご存知のとおり加算で収益をあげていく方向性がさらに強化された感があり、先行きを楽観できない現状が浮き彫りとなっています。

また、利用者目線でも変化があります。例えば、通所介護等では自立支援を重視するサービス事業所があれば選択肢の広がりを実感できますし、老健では、在宅復帰を本格的に推進する方向にともない、自宅での暮らしに不安を感じる利用者のご家族にとって安心できる「在宅」の選択肢を検討することになります。共生型サービスがすすむのも、65歳前後の障害者にとって明るい情報でもありますね。

制度の変化は、その詳細や意図が理解しにくい利用者にとってあらたな選択と迷いを生み出すので、信頼できる相談相手として、介護事業所への期待が高まります。利用者負担についても、全体の約3%と言われる高額所得者の自己負担3割の導入によって、多少なりとも利用者のサービス利用の選択への影響も気になります。

そして、早くも次期改定2021年にさらなる改定が見えてきたとささやかれています。医療と介護サービスの新しいステージともいえる「介護アウトカム時代」にむけて前進するかたちです。改定のたびに介護サービスのありかたを問われますが、自立支援と重度化防止によって、世界一健康な国をつくることをめざしているのだというメッセージが、今回ほどあらためて伝わってきますね。真正面から受け止めていかなければと思います。

訪問介護事業の改定事項

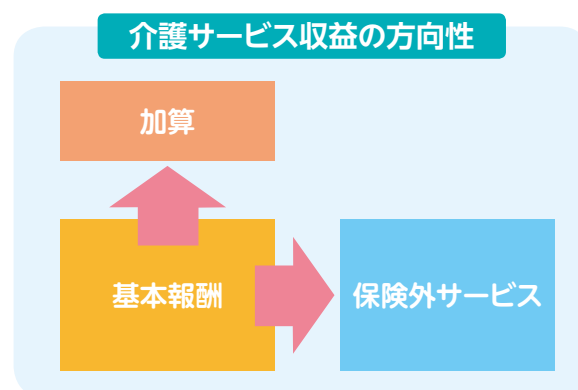
- 1 生活機能向上連携加算の見直し
- 2 「自立生活支援のための見守りの援助」の明確化
- 3 身体介護と生活援助の報酬
- 4 生活援助中心型の担い手の拡大
- 5 同一建物等居住者にサービス提供する場合の報酬
- 6 訪問回数の多い利用者への対応
- 7 サービス提供責任者の役割や任用要件等の明確化
- 8 共生型訪問介護
- 9 介護職員処遇改善加算の見直し

◆在宅生活を支える時代へ

在宅か入所かといった二者択一から、入所のかたちで在宅という暮らし方の提案が増えてきました。サ高住や高齢者ケア付きマンション、シェアハウスなど、リーズナブルなものから富裕層向けのものまでラインアップも豊富です。

そんななか、認知症一人暮らしであっても在宅生活ができるようにと、地域支援事業も多様な展開をみせています。もはや介護保険サービスだけで生活は成り立たない今、介護保険外サービスや、他業種から生活支援サービスの参入が急増しています。

介護サービス事業は、介護保険制度内サービスだけでよいのでしょうか。訪問介護事業所をはじめ通所介護事業所では、在宅要介護高齢者へのケアに関するあらゆるノウハウや人脈、信頼、経験をもち、しかも施設サービスの利用や入所へ移行したり、入退院をへて在宅生活を支える場面での重要な要の役割を持っています。ケアマネジャーがうまく医療との連携をとりながら、どのようなニーズがあるのかをいち早くキャッチでき、利用者との信頼関係によって新たなサービスメニューの提案ができます。今後、介護がますます在宅生活中心になるにつれ、訪問介護サービスの可能性は高まるのではないのでしょうか。



介護事業所のこれから

このように、医療と介護は必要な人へ必要なだけのケアが行き届くような仕組みを各自自治体で考えて整えていくとともに、健康な住民が一緒になって介護予防に取り組む姿が求められています。同時に、保険制度の適正化を図り、今の若い世代の将来のために持続可能なかたちに整えていくため、負担とケアのバランスを見直す過渡期となります。現場では、必要な介護人材が確保できなければシニア世代やパート勤務者、そして外国人労働者や介護ロボットを積極的に採用していくことも必要ですね。新しいチャレンジであれば介護事業所相互の情報交換や専門家を交えた検討をすすめてください。なによりも、あまりに時代の変化が早く、じっくり様子を見ている余裕もなさそうです。目先の数字にとらわれず、数年先をみながらの経営判断を。きゃぷすでは、今後もこうした情報を読み解く解説や提案を重ねてまいりたいと思います。

未来につなぐ人財育成のエッセンス⑪

介護の仕事に自信をもつ方法 ～使命感ある介護職を育てるために～

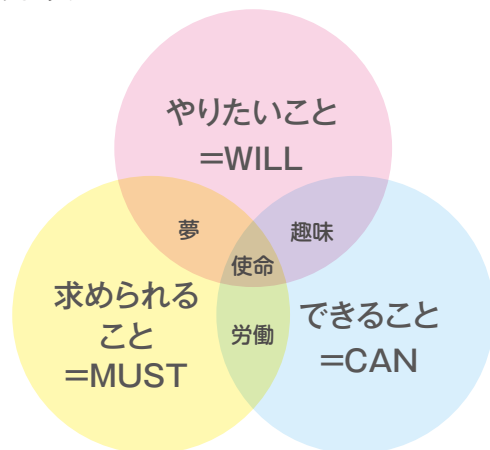


「おじいちゃんが認知症だったんです」「前の仕事から介護の仕事に変わったら笑顔がふえたねって夫が」。介護の仕事を始めようとする人には、家族の介護などなんらかの介護経験があったり、友だちや知人からの体験談がきっかけだったりします。数字を追いかめたり、手にとれる商品を販売したりといった仕事とは違って、相手のペースやありかたにそった仕事の介護は、ある意味独特の世界観ではないでしょうか。はじめて介護の仕事に就いた人が、そのおもしろさと自分なりの考えを実感し、自信をもって仕事に就いてもらえるまでしっかりと育てていきたいですね。

はじめての仕事は誰も不安があります。わからないことばかり。ただ、不安ではあってもできることを一日一日積み重ねていけば、やがて安心が生まれ、高齢者さんたちの笑顔や自立など、手にとるようにわかっていけば実感や満足が得られ、それが自信につながります。

しかし、指導者が忙しかったり、雑な指導をしたりしていると、新人職員はどうすればよいか分からないままあやふやになり、つい失敗することもあります。そのとき、フォローがあれば次は頑張ろうと思えるものの、叱られたり注意されたりするとその不安がふくらんだりして、さすがにへこみます。それが続くとうとうちゃんと教えてくれないのかといった不満に変わり、やがてここにいていいのだろうかと事業所への不信に変わります。もし、あなたの職場にこうした流れがあるのなら、いまずぐ変えていかなければなりません。

リーダー自身も一度、振り返ってみてください。この仕事のおもしろさや手応えを感じたことも少なくないはず。やりがいに身震いしたことだってあるでしょう。介護の仕事は、その使命感を描きやすいといった特徴があります。



上の図は自己認識を確認する考え方として有名な「MCWの輪」。Must(求められること)、Can(できること)、Will(やりたいこと)の3つ。できるし求められているけれどやりたくないのは「労働」、やりたいし求められているけれどできないときは「夢」、やりたいしできるけれど求められていないのは「趣味」です。やりたいしできるし、求められているという3つがそろってはじめて「使命」としての仕事です。しかし、どれかひとつでも欠けているとバランスが悪くなり、仕事のありかたが変わっていきます。あなたの職場はいかがでしょうか。

新人職員を育てるなかで3つを意識できるように丁寧に教える風土を目指してください。



一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 代表理事 丸山 法子

リエゾン地域福祉研究所 検索



(社会福祉士 介護福祉士 生涯学習開発財団認定コーチ NLP マスタープラクティショナー)

福祉 を語るあなたへ 贈る本

「ユマニチュード」という革命

なぜ、このケアで認知症高齢者と心が通うのか
イヴ・ジネスト／ロゼット・マレスコッティ：著
誠文堂新光社：出版



攻撃的、徘徊などの問題行動が減った。スタッフや家族の負担も軽減。専門職の離職率が大幅に改善した。その施設ではこうした「魔法のような」症例がなぜ数多くあるのでしょうか。フランスで生み出された、認知症高齢者が穏やかな人生を取り戻すケア技法「ユマニチュード」。その考え方と技法の実践を開発者自らが語ります。私たちの「あたりまえ」にもう一度向き合う機会にさせていただきたい一冊。
※キャプスでは販売しておりません

2018
年度版

ケアマネジャー・ケアクラークのための

介護サービスコード表

2018年
5月7日発売予定

ご予約受付中





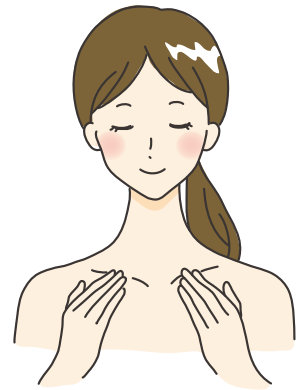
ほつ デコルテケア前のマッサージ とお手入れ リンパを流して美人度アップ

首から胸元にかけての“デコルテ”は「第二の顔」とも呼ばれ、美人をつくる重要な要素です。「首には年齢が出る」とも言われるように、デコルテのむくみやくすみは老けて見える原因となります。

美しいデコルテをつくる前に、リンパの流れをよくしておくことが大切。リンパ節が詰まっている状態では、マッサージをしてもリンパの流れがすぐに悪くなり、効果もいまいちです。リンパ節が詰まることで、肉もつきやすくなります。お仕事の合間などに、服の上からでも試してみてください。

リンパ節を流す

- ①耳の下
手をグーにして、人差し指の第一関節で、耳の下をえぐるようにしてリンパ節をほぐす。左右ともに10回程度行う。
- ②鎖骨
右手の人差し指と中指で（チョコキの形）左側の鎖骨を挟み、体の中心から肩に向かって10回ほど流す。クリームなどを使うと滑りやすくなる。右側の鎖骨も同様に行う。
- ③脇
人差し指と中指、薬指の3本の指で、脇の下を下へと流すようにほぐす。



取材協力/エステ・整体サロン MIU (東広島市)

新緑でひと休み

新しい出会いにワクワクする春ですが、環境の変化に心は意外と疲れています。そんな時は森林浴へ。森の中を歩いていると安らいだ気持ちになるのは、植物が周囲のバクテリアから自分を守るために発散させている「フィトンチッド」という成分によるもの。森林部では、都心部に比べて血圧や脈拍数が低下し、リラックス時に高まる副交感神経活動が活発に。森林浴にはリラックス効果があることが科学的に実証されています。



気になる数字 24.4億から500億へ

政府は高齢者施策の指針となる高齢社会対策大綱を閣議決定し、ロボット介護機器の市場規模を24.4億円（2015年）から2020年には500億円をめざすとしました。認知症やフレイル等の健康課題や生活環境等に起因・関連する課題に対し、最先端科学技術を活用する方針。介護ロボットは、自立支援等による高齢者の生活の質の維持・向上と介護者の負担軽減を実現するため、現場のニーズをしっかりとくみ取った開発をすすめます。介護ロボットとともによりよいケアの実現ができる未来がやってきてほしいですね。

きゃぷす便り定期購読について

「きゃぷす便り定期購読希望」と明記の上、お届け先の「郵便番号」、「住所」、「事業所名（ご氏名）」を記入しメールアドレス、またはフリーダイヤルFAX宛てにお送りください。無料でお届けします。

●フリーダイヤルFAX 0120-47-1704 ●メールアドレス caps-shop@tanishi.co.jp

息抜きになるサイトができました。

老いも人生も、
もっと楽しもう！

老いも人生も楽しむチャンネル。

CAPS channel

キャプスFacebook ▶

キャプスチャンネル 検索

<http://caps-channel.jp>